

NO.77

令和6年12月1日

号
社会福祉法人 春風会 広報誌

発行 社会福祉法人 春風会 理事長 石川三義 〒410-0302 静岡県沼津市東椎路1742-1 ☎ 055(967)1166代 ☎ 055(967)3566 春風会HPアドレス http://www.shunpuukai.com/



「春風会職員運動会」～伊豆市天城ドームにて～

事業運営には、ヒト、モノ、カネの3つの要素が欠かせない。ヒトは人材、モノは施設設備や介護機器、カネは人件費や事業費などのお金である。これに加えて、感染症や災害発生も事業運営に大きな影響があり、この点から事業継続について考えてみた。

コロナ感染症は昨年5類に変わり、生活スタイルもコロナ前に戻っているが、高齢者は感染して肺炎等の合併症を併発するリスクがあり、病院や福祉施設は感染予防を継続し、BCPという感染症発生時も福祉サービスを継続する計画を立てている。コロナ禍で働く医療・福祉に従事する人に対し、必要な不可欠という意味のエッセンシャルワーカーという言葉が用いられたが福祉職の給与水準は一般より低い。そのため新たに待遇改善支援手当が創設され福祉職の待遇改善・給与向上が図られている。しかし、令和4年の全国の特養の收支状況調査で約6割が赤字となり、コロナ禍での稼働率低下が大きな要因であるが、特養運営も厳しい状況にある。

防災面では、東日本大震災の教訓を生かし福祉施設も地震に備えてきたが、今年8月、日向灘を震源とする地震発生後、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表され、備蓄品の

確保や発生時を想定した訓練実施など大地震に対する意識もさらに高まった。BCPマニュアル整備も義務化され、どんな危機的状況になつても事業を停止させない、停止しても早急に復旧させて事業への影響を最小限に抑える計画を策定し、クラスター（集団感染）発生時や、地震、豪雨災害が起きてても、福祉サービスを継続することが求められている。

高齢者福祉は、2025年問題（国民5人に一人が後期高齢者）を迎える頃の世代が全員75歳に達する2040年には85歳以上が100万人以上になると見込まれ、医療・介護ニーズは高まり、少子化による労働者不足も顕著である。福祉の仕事も、ニーズに沿った良質なサービスを提供し、利用者から選ばれなければ稼働率も下がり赤字運営では事業廃止となる。当施設も幅広い年代の職員が経験や能力を活かして、施設運営・福祉サービスの提供を担っている。事業継続は、入居されているお年寄りや自宅で介護サービスを利用している方を支えるためであり、同時に職員の生活を支えている。高齢者が元気に暮らせる幸せを職員と共有し、事業継続に取り組んでいきたい。

「高齢者施設の事業継続に向けて」

みはるの丘浮島 施設長 長田 直樹



第2回 外国人介護職員意見交換会

～文化の違いも悩みは共通～

意見交換会には、あしたかホームから介護福祉士（バングラデシユ・男性）、プレーティー（フィリピン・女性）、ぬくもりの里からはEPA介護福祉士候補生2名（インドネシア・男性）と特定技能（インドネシア・女性）、みはるの丘浮島からはEPA介護福祉士候補生（インドネシア・女性）の計6名と石川理事長・木内本部

この外国人職員22名のうち、2023年12月以降に採用となった職員6名を対象に2024年8月21日（水）にあしたかホームにおいて外国人職員等意見交換会が開催されました。

ミャンマー、バングラデシユ、ベトナム等となっています。その就労形態もEPA介護福祉士候補生・技能実習生・特定技能・留学生（専門学校卒の介護福祉士取得者）と多岐に渡っています。

現在春風会では、法人全体で22名の外国人介護職員が就労しています。その国籍は、フィリピン・インドネシア・

長・飯田統括施設長・宮代施設長及び各施設のEPA等受入研修担当者が出席しました。



意見交換会では自己紹介の後に、「日常生活をする上で良かった事・困った事」、次に「仕事をする上で良かった事・困った事、大変な事」をそれぞれ挙げてもらいました。

(1) 「日常生活をする上で良かった事」

「東京や大阪などに旅行へ行った事」という意見が多く、休日に日本各地の観光地を楽しんでいる

「文化が違う、生活が一変したこと」が大変である」という意見が多くありました。具体的には「宗教上食べられないものがある」「日本料理が口に合わない」「日本の交通ルールが難しい」「日本の夏はベタベタしていて体がだるい」など様々な意見がありました。やはり異なる文化・言語・習慣や気候の中で暮らしていくことの大変

様子が伺えました。加えて「日本料理が良い」や「ラーメンが美味しい」など食に関するもの、また「職員と魚釣りへ行つた事」など職員との交流を窺える意見もあがりました。

(2) 「日常生活をする上で困った事」



さがわかります。

(3)「仕事をする上で良かった事」

第一に「利用者からありがとうと言われた事」という意見があがりました。これは日本人の新人職員にも多い意見で、利用者からの感謝の言葉が嬉しいというのは万国共通であるということがわかります。次いで自國には特養のような施設がないので、施設 자체が良い、施設で提供しているケアが良いといつた意見もあがりました。また「職員や利用者が優しい」といつた意見も多くあがりました。

(4)「仕事をする上で困った事・大変な事」

皆さん共通して「仕事をしながら日本語の勉強をする事」があがりました。各施設でEPA介護福祉士候補生には日本語学習の支援体制をとっていますが、各施設で多少の相違もあり、今後研修担当者同士の情報共有や支援方法の統一化などより充実した学習支援が必要であることがわかりました。これに付随する問題として「介護の専門用語が難しい」「申し送りの内容が難しい」といった点が挙げられました。実際の介護技術よりもこのことが介護の専門職としてのハードルになつていることが窺えます。

の「外国人職員育成委員会」を開きました。「生活面の支援」、「日本語学習の支援」、そして「仕事をする上で支援」の大枠を設け、今後各項目を具体化し、最終的には法人で「外国人職員受け入れマニュアル」を作成することを目的とします。

介護人材が今後ますます不足する中、外国人職員が施設等で働くことは増えていくことになると思われます。利用者の安心・安全を確保し、質の良いサービスを提供し続けるためにも、外国人職員の育成をより確かなものにしていくことが急務であると考えます。



外国人職員育成委員会の立ち上げ

その他の問題としては、「夕方ユニットで1人になる時に利用者対応する時が不安」や「コールが複数鳴り、優先順位をどうするか困る事がある」など、これもまた日本人の新人職員と同じ悩みであり、共通するものだと思います。



春風会で働く 外国人介護職員

インドネシア フィリピン
ミャンマー バングラデシュ
ベトナム 中国
ペルー スリランカ

(日本国籍取得者を含む)



「みんな集まれ 防災イベントへ」

伊豆市複合施設
ふらつと月ヶ瀬



防災イベントで、楽しもう

6月15日は、梅雨真っただ中でした。晴天に恵まれ、さわやかな空気で、朝早くから、ふらつと月ヶ瀬内は、足早にイベントの準備が進められていました。「園児、高齢者、障がい者と地域の方々が一緒に防災訓練は、伊豆市内で初めてです。」と伊豆市危機管理課の職員の冒頭のあいさつに、私たちにも緊張が走りました。開会式のホールには、障がい者とその家族、園児たち親子、伊豆市利用されている高齢者、地域の役員及び一般の方々



園庭では消火訓練、駐車場では消防車両乗車体験、プラムカフェは非常食の試食コーナーに早変わり。伊豆市役所からは、非常食の提供や消防車両の配置など多くの協力

等、70人近くが集まりました。一年前から、静岡大学フィールドワークの一環として、「この複合施設で、顔の見える防災イベントを企画したい！」という一学生の熱い思いから、職員と一緒に取り組んできました。計画の中で、この複合施設を有効に使い、各ブースを設けてみました。こども園のホールは避難所設営訓練、子育て支援センターはAED体験、

を頂き、地域づくり協議会に参加要請をし、みんなで作り上げていこうとする気持ちが、イベントへの想いとなつて、その結果、盛況な催しとなりました。元気に飛び交う子ども達の声や多くの笑顔、またその傍らで見せる真剣な参加者の表情から、改めて考えさせられる防災のイベントとなりました。

寄せられた感想から

アンケートの結果から、「ベビーカー、車いすのまま、参加できる防災イベントも企画してほしい」「実際に災害が起こつたら、こうなるんだというイメージがわいてきた」「非常食もいろいろな味をたくさん試食できて、楽しかった」「また参加したい」「障害のある方が、一生懸命AED体験をしている姿に感動しました」等、多くの意見が寄せられました。

参加者からの尽きない意見に、今後は、指定避難所に指定されているこの「ふらつと月ヶ瀬」が持つ役割の一つに、「防災力の向上」を視野に入れていかなければいけないと再認識できました。



在宅障がい者を対象にした お金の勉強会

サポートセンター*
＊



サポートセンター絆の地域活動支援センターでは今年度から、伊豆の国市地域自立支援協議会の精神包括ケアシステム部会に参加しています。この部会は障がいがあつても地域の中で安心して暮らせるような地域づくりに取り組んでいます。

これまでの取り組みの中で、「お金が上手に管理できない」「ついネット通販で買い物をしすぎてしまう」「バチンコがやめられない」「消費者金融で借金をして生活が苦しい」など、お金に関する様々な悩みを抱えている人が大勢いることがわかり、令和6年度は4回にわたって、お金についての勉強をサポートセンター絆の会場として、仲間と一緒に考える機会を設けました。



この部会は障がいがあつても地域の中で安心して暮らせるような地域づくりに取り組んでいます。

これまでの取り組みの中で、「お金が上手に管理できない」「ついネット通販で買い物をしすぎてしまう」「バチンコがやめられない」「消費者金融で借金をして生活が苦しい」など、お金に関する様々な悩みを抱えている人が大勢いることがわかり、令和6年度は4回にわたって、お金についての勉強をサポートセンター絆の会場として、仲間と一緒に考える機会を設けました。



だということが良くわかった。今日から気を付けようと思った。警察に人から詳しく聞けて勉強になつた。と感想が聞かれました。

今後は、ギャンブル依存症や家計簿をつけてみようというテーマの講話が続きます。大切なお金を上手に使い、より良い暮らしができるように、仲間と一緒に考える機会を提供していきます。

片浜・今沢地域包括支援センターでは地域のケアマネジャーを対象にケアプランAIの体験会を開催しました。

片浜・今沢地域包括支援センターにおいてAIが必要とされる理由は多岐にわたります。まず、AIは業務効率化に大きく貢献します。ケアマネジャーは多くの事務作業を抱えており、AIを活用することでこれらの作業を自動化し、時間を大幅に短縮できます。例えれば、音声入力や自動文書作成機能を利用することで、報告書や記録の作成が迅速に行えます。また、AIは情報管理と分析に優れています。高齢者の状況やニーズは多様であり、膨大なデータを効率的に処理することが求められます。AIはこれを可能にし、必要な情報を迅速に抽出・分類することで、ケアマネジャーがより効果的に対応できるようになります。さらに、AIはケアプランの最適化にも寄与します。過去のデータを基に、個別のニーズに最適なケアプランを作成することができ、利用者が一人ひとりに合わせた質の高いケアが提供されます。また、AIはリスク管理にも役立ちます。異常行動や危険状況を早期に検知し、事故や怪我を未然に防ぐことができます。これにより、利用者の安全が確保されます。最後に、AIは人手不足の解消にも貢献します。介護業界では人手不足が深刻な問題となつており、AIの導入により業務の一部を自動化することで、介護職員の負担を軽減し、人手不足の解消に寄与します。

片浜・今沢地域包括支援センターにおいてAIの活用はケアマネジメントにおいて多くの利点をもたらし、より効果的で質の高いケアを提供するために不可欠なツールとなっています。



業務効率化によるケアマネジャーの生産性向上に向けて 「ケアプランAI体験会の開催」

片浜・今沢地域
包括支援センター



られました。

また施設の玄関前や花壇にも季節のお花や植物を少しずつ増やしているところなので、四季折々のお花が、利用者の楽しみのひとつとなり、散歩がてら外出する機会が増えればいいなと考えています。他にも近隣の農家の方からも近くの茶畑で手摘み体験をよかつたらどうぞとのお声もかけて頂けたので、来年の新茶シーズンに利用者と一緒に是非挑戦してみたいと思います。

当施設では今年度より特養入居者、ショートステイ利用者を対象にフラワー・アレンジメントを開することにしました。コロナ禍前には月一回のペースで同様のものを行っていましたが久しぶりの実施ということで、久しくぶりの実施ということで、今年は年四回とシーズンごとにあります。

一回の参加人数は十五名程度ですが、希望者もたくさんおり、思っていた以上にお花が好きな方が多く、中には昔お花の先生をやっていた方などもあり、活動を通して会話がはずみ、普段では見られないような笑顔も見



お花以外にも、利用者から「歌や詩吟を昔はよく仲間とやつていた、習字が得意でまたやりたい、元気な時はずっと畠の世話をしていた。」等の声をよく聞きますので、ご希望に合わせて小さなクラブ活動を作り、利用者はもちろん職員も巻き込んで楽しい活動を増やしていくないと考えております。

年長組は勝つためのチーム分けや順番を自分達で話し合いながら進めます。練習では勝つたり負けたりを繰り返し、運動会の表情が明るい表情に変わりました。

「負けても次どうしたらいいか考えればいいんじゃない?」リレー練習後の話し合い、A君のことばに負けたクラス全員の暗い表情が明るい表情に変わりました。

本園が大切にしていることは発達段階に応じた内容を選び、遊びや生活の中から興味のあることを子ども達と考えながら構成することです。その結果、運動会当日にはみんなが生き生きと輝く運動会になりました。



で作った国旗を使って動きを合わせ、旗をどう見せるかの演技を子ども達と話しました。

「パリオリンピックがあつたからスポーツを意識した表現を取り入れたらどうかな?」と子ども達に投げかけると、興味をもつたスポーツごとにグループになって自由に表現し、我が子の成長ぶりを見て涙を流す保護者もいました。

年長組は勝つためのチーム分けや順番を自分達で話し合いながら進めます。練習では勝つたり負けたりを繰り返し、運動会当日にも抜かされて、悔し涙を流す子がいました。ただ、次日には抜かされた子が抜かした子に「気分を変えるために焼き肉を食べた!」とあつけらかんと話す姿をみてご家庭の優しさが伝わってきて嬉しかったです。

今年の運動会では夏の遊びやパリオリンピックを意識した構成を考えました。遊戯では自分

今回の研修では、各施設で抱えている課題について議論しました。救護施設は、生活保護法に基づく自立支援施設で様々な障がいや経済的な課題を抱える入所者が生活の仕切り直しをする為の施設です。

また地域における福祉の拠点として生活困窮者支援の役割も持っています。

静岡県救護施設協議会では、年に一度に救護施設の各職種の研修会を開催しています。県内七施設の異なる環境や定員のなか、支援の情報交換と業務向上・知識・見聞を広げる為の研修会となり、今年は静岡市葵寮で開催されました。



した。そのなかで一番目立った課題が『スマートフォンの個人所有』でした。理由として各施設の状況としては、個人管理やSNS等正しく扱う事が出来るかどうか不明であり、またそれがきっかけで他者とのトラブルに発展しかねる等の理由で、どの施設も個人所有を許可していませんでした。しかし、入所希望においては使用できなければ入りたくないと断念するケースが多くありました。

そのニーズに少しでも応えるため現状を踏まえ高尾園では、希望の入所者には、パソコン・タブレット端末を利用できる環境を設けています。

将来的に、YOUTUBEやゲームをしたい等、より強いニーズを求めた入所希望者が想定されます。

それに対しても、救護施設として、どのように対応していくかが今後、求められると予測され、より良い環境を作っていく必要があると感じました。

各事業所がこの日のために、練習を重ねた歌やダンスを披露すると、リズムに合わせ手を叩いたり、一緒に踊りだす姿がありました。その後は待ちに待つたパン食い競争です。まっすぐパンへ向かっていく人、応援する人、職員と一緒に参加する人、もう一度参加したくなってしまった人等、普段は見ることができ



ない表情を見せてくれました。販売ブースでは、縫製品・お米・手芸品が並び、何を買おうかと迷っている姿もありました。一年に一度の交流ですが、顔を覚えていて「元気だった?」「また会えましたね」と声を掛け合い、再会を喜びあう様子は、十五年間にわたりふれあいの集いで結ばれ、積み重ねたからこそ会話だと思います。帰りには「また来年会いましょう」「元気でね」笑顔で挨拶し帰路につきました。その笑顔が、楽しかった時間を過ごすことができたと伝わりました。来年も、皆さんに会える事ができるように楽しみにしています。

販売ブースでは、縫製品・お米・手芸品が並び、何を買おうかと迷っている姿もありました。一年に一度の交流ですが、顔を覚えていて「元気だった?」「また会えましたね」と声を掛け合い、再会を喜びあう様子は、十五年間にわたりふれあいの集いで結ばれ、積み重ねたからこそ会話だと思います。帰りには「また来年会いましょう」「元気でね」笑顔で挨拶し帰路につきました。その笑顔が、楽しかった時間を過ごすことができたと伝わりました。来年も、皆さんに会える事ができるように楽しみにしています。

敬老会

プレーゲあしたか 敬老会



プレーゲあしたか特養では、9月17日に敬老会を行い、喜寿・傘寿・米寿・卒寿・白寿の方々をお祝いしました。昨年の広報はるかぜでも紹介させていただいた特養の最高齢者である佐野ますよ様も元気に105歳を迎えるされました。

105歳になった感想をお伺いすると、「何のことない。何も変わらないよ」と笑顔で答えられました。

プレーゲあしたか小規模多機能型居宅介護支援事業所でも同日に敬老会を行いました。

表彰や職員による出し物、昼食時には栄養課からの祝い膳の他に多機能キッチンでエビフライを揚げて提供し、とても好評でした。

多機能利用者で最高齢者は105歳の土肥貞子様です。土肥様は元小学校教師でした。今から83年前



の昭和16年、現在の沼津市立第四小学校が尋常小学校から沼津市立第四国民学校に校名変更になった際に採用され、「主に低学年の子を教えていました」とのことです。長寿の秘訣をお伺いすると「家へ帰ったら威張ること。言いたいことを言うこと」と明かしてくれました。またお写真にあるように美肌の秘訣は「朝起きて水で洗うだけです。特別なことはしていませんよ」とのことです。多機能の利用については「ここはみんないい人。出来ないことが多くて、職員さんに手をかけてしまって申し訳ないけど」と、謙虚におっしゃっていました。

みはるの丘浮島 敬老会

みはるの丘浮島では9月6日（金）に敬老会を開催しました。コロナ禍では感染症対策にて各ユニットでの開催でしたが、今年は以前のようにご家族も式典へ参列され、米寿・卒寿・等、記念のお祝いのお祝い者の利用者と共に楽しむことができました。「一緒に祝いて良かった」と多くの喜びの言葉を頂きました。

式典の中で地域の保育園の子供達による歌の発表があり、利用者は素敵な笑顔で見守り、一緒に唄い手拍子で楽しまれ聞き入っていました。



また、職員有志によるソーラン節があり、職員の名前を呼んで応援されている利用者が多く、とても盛り上がりいました。

勤務の合間でソーラン節の練習に励んでいた職員も「利用者さんの喜ぶ姿を見られて嬉しかった」と楽しい時間を過ごすことができました。

午後はユニットごとお楽しみ会を行いました。演芸や射的、音楽会などそれぞれのユニットで企画した催しを皆で楽しみ、長寿をお祝いすることができました。

今後も感染症対策をしつつ、皆が楽しめるように様々な催しに取り組んでいきたいと思います。

敬老会

ぬくもりの里 敬老会

コロナ禍以降、感染対策から小規模で各グループ毎に職員主体でお祝いを行ってきましたが、5年ぶりに入居者様全員が集まり、慰問を依頼しての敬老会を開催することができました。

伊豆中央高校吹奏楽部の生徒13名が来園し、「天城越え」等入居者様が聞き覚えがある曲を選曲していただき、アンコール演奏を含め4曲を演奏されました。迫力のある音、馴染みのある音楽を聞き、多くの入居者様が涙を浮かべて聞き入っていました。普



段落ち着きのない方も真剣に聞き入っていた姿が印象的でした。

職員からのプレゼントとして、アコーディオンによる流し演奏も行い「富士山」や「365歩のマーチ」を口ずさみながら演奏を楽しみました。

音楽を中心の敬老会となりましたが「すごく良かった」と多くの入居者様から感想をいただくことができました。

来年も感染症対策に注意しつつ、ご家族と共に多くの方でお祝いできるよう取り組んでいきたいと思います。



北狩野ケアセンター 敬老会

北狩野ケアセンターでは9月14日（土）に敬老会を開催しました。ここ数年のコロナ禍の影響で、事業所ごとに実施していましたが、今年度は小規模多機能とグループホームの合同で行いました。お祝いの賞状の変わりに似顔絵を描いた色紙を贈呈したときは、笑みを浮かべて喜んでいただきました。昼食の厨房職員が腕を振るった握り寿司は、利用者に大好評でした。余興はボランティアの「ぱんぽこ座」の6人が人形劇で桃太郎を演じ、演技の中で高齢者の特殊詐欺の予防も行っていただきました。鬼役は



職員が担当し優しい職員が、この時ばかりは怖い鬼で魅了しました。ぱんぽこ座は結成して20年以上で、多彩な道具や着ぐるみを次々に展開し台本も読まず、時にはアドリブで圧巻の演技でした。その後は、チーム対抗の大すごろくゲーム大会を行いました。昔懐かしい銀幕の俳優をパネルにして、利用者様的好みを職員が当てるゲームは盛り上りました。女性は小林旭、男性は吉永小百合が人気でした。デザートは選べるスイーツとして、水ようかん、プリン、リンドゼリーを用意し、全種類召し上がられた方もいました。久しぶりの合同での敬老会で利用者様の間でも交流ができ、楽しい敬老会でした。

沼津 虹の家

サマーショート ボランティアの 受入れ



沼津虹の家では静岡県ボランティア協会の主催による夏休みの「サマーショートボランティア」の受け入れを今年も行いました。このサマーショートボランティアは沼津虹の家が開設以来、毎年受け入れを行つて来た活動です。今年は夏休期間中に高校生8名がそれぞれ3日～5日のボランティア活動を通して障がいのある利用者の方々と触れ合いました。8名は沼津市内だけではなく、伊豆の国市や函南町からも参加されました。活動日に台風被害があるなど、一部日程を変更しての活動となりました。



沼津虹の家では静岡県ボランティア協会の主催による夏休みの「サマーショートボランティア」の受け入れを今年も行いました。このサマーショートボランティアは沼津虹の家が開設以来、毎年受け入れを行つて来た活動です。今年は夏休期間中に高校生8名がそれぞれ3日～5日のボランティア活動を通して障がいのある利用者の方々と触れ合いました。8名は沼津市内だけではなく、伊豆の国市や函南町からも参加されました。活動日に台風被害があるなど、一部日程を変更しての活動となりました。

活動日程を終えた学生からは、「参加して良かった」「十分な会話は出来なくとも、笑顔やゼスチャーで意思疎通を図れたのではないか」と思いました。「お別れの時に、次はいつ来るの?また来てね!」と言われ、自分でも人の役に立てたのかなと自信が湧いてきました」など、様々な感想が寄せられました。

参加した学生の活動動機は様々でしたが、高校卒業後の進路として、福祉や医療系の専門学校や大学受験を目指している学生が多く感じられました。今回の体験が参加した学生の皆さんへの進路決定や将来において少しでも活かされることを期待しています。

取り方も異なります。限られた活動日の中で、参加した学生も四苦八苦しながら積極的に利用者とコミュニケーションを図ろうとするその姿に、私たち職員も見習わなければいけないなあと感心しました。

～ボランティアさんの活動をご紹介します～

石川まつ子様・石川節子様

石川まつ子様・石川節子様の姉妹は、毎週木曜日にプレーゲあしたか内の草取りや落ち葉拾いなどの清掃をして頂いています。広い園内を暑い日も寒い日も作業して頂いており、都度感謝の意をお伝えするのですが、ご本人たちは「遊ばせてもらっているのは、こちらですよ。気にしないで」とお二人とも笑顔で応じてくれます。お二人のお陰で、園内はいつも綺麗な状態を保っています。



宮代二三夫様・大嶽 茂様

宮代二三夫様は、プレーゲあしたか内の芝生や植木の手入れをして頂いています。年々植木が大きくなつて手入れが大変な中、活動はとても精力的です。

大嶽茂様は、プレーゲあしたか内の畑で、トウモロコシやスイカ、じゃがいもなどを栽培して、定期的にとりたての作物をお年寄りや職員に配つてまた宮代様と同じく芝刈りもして頂いています。

プレーゲあしたかの運営に欠かせない大切なお二人です。



プレーゲ あしたか

お手伝いをして
くださっている
方々のご紹介

社会福祉法人春風会 決算報告書

事業活動計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：千円未満切捨)

勘定科目	決算額
サービス活動収益計①	4,469,375
サービス活動費用計②	4,357,714
サービス活動増減差額③=① - ②	111,661
サービス活動外収益計④	13,341
サービス活動外費用計⑤	5,839
サービス活動外増減差額⑥=④ - ⑤	7,501
経常増減差額⑦=③ + ⑥	119,162
特別収益計⑧	12,471
特別費用計⑨	11,629
特別増減差額⑩=⑧ - ⑨	842
当期活動増減差額⑪=⑦ + ⑩	120,005
前期繰越活動増減差額⑫	3,774,123
当期末繰越活動増減差額⑬=⑪ + ⑫	3,894,129
その他の積立金取崩額⑭	623
その他の積立金積立額⑮	135,151
次期繰越活動増減差額⑯=⑬ + ⑭ - ⑮	3,759,600

資金収支計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：千円未満切捨)

勘定科目	決算額
事業活動収入計①	4,482,660
介護保険事業収入	3,500,509
保育事業収入	297,481
障害福祉サービス等事業収入	338,948
生活保護事業収入	241,056
医療事業収入	5,784
事業活動支出計②	4,204,715
人件費支出	3,222,349
事業費支出	655,024
事務費支出	298,383
事業活動資金収支差額③=① - ②	277,944
施設整備等収入計④	11,769
施設整備等支出計⑤	72,924
施設整備等資金収支差額⑥=④ - ⑤	△ 61,155
その他の活動収入計⑦	5,673
その他の活動支出計⑧	144,940
その他の活動資金収支差額⑨=⑦ - ⑧	△ 139,266
当期資金収支差額合計⑩=③ + ⑥ + ⑨	77,522
前期末支払資金残高⑪	1,724,348
当期末支払資金残高⑫=⑩ + ⑪	1,801,871

事業活動計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：千円未満切捨)

勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
流動資産	2,006,337	流動負債	405,780
固定資産	7,986,856	固定負債	132,778
基本財産	4,339,080	負債の部合計	538,559
その他の固定資産	3,647,775	基本金	194,131
		国庫補助金等特別積立金	2,268,886
		その他の積立金	3,232,016
		次期繰越活動増減差額	3,759,600
		(うち当期活動増減差額)	120,005
		純資産の部合計	9,454,634
資産の部合計	9,993,194	負債及び純資産の部合計	9,993,194

令和5年度の事業活動収入は、44億8,837万円です。前年度から3,554万円の増収になりました。内訳としては介護保険収入が35億418万円、老人福祉事業2,501万円、保育事業2億9,748万円、障害福祉事業3億3,894万円、生活保護事業2億4,105万円が主な収入です。それぞれの事業で前年度の収入を上回りました。

支出は42億1,043万円。前年度から1億2,409万円減りました。人件費は32億2,234万円、事務費が3億299万円、事業活動差額は2億7,794万円、施設整備支出は7,436万円、積立資産は1億3,470万円です。

当期資金収支差額は、7,752万2,302円となり、法人全体の資金残高を表す当期末支払資金残高は18億187万1,041円となりました。

財産目録は、流動資産が20億633万7,690円、基本財産が43億3,908万975円、その他の固定資産が36億4,777万5,685円で資産合計が99億9,319万4,350円、流動負債が4億578万836円、固定負債が1億3,277万8,730円で負債合計が5億3,855万9,566円となります。差引の純資産は、94億5,463万4,784円です。

社会福祉法人春風会の現況報告書・計算書類等は、
春風会ホームページからもダウンロード出来ます。



春風会
主催

介護職員初任者研修講座～地域介護力の向上に向けて～

春風会主催の『令和6年度 介護職員初任者研修』は沼津地区会場、伊豆地区会場の2会場に分けて講義を行いました。沼津会場はプレーゲあしたか、伊豆会場はプレーゲおおひとを研修会場としてそれぞれ週2日の講義日程を終了しました。

今年度の講座には、沼津会場には7名、伊豆会場には6名の受講者がありました。春風会の本講座は、法人の地域貢献活動の一環として開講するものであり、受講者の受講動機も、将来に向けた介護知識の享受や介護技術の取得のためという方が多く見受けられました。研修講師には、各施設の介護福祉士や看護師等の資格を有する職員が担当し、特に介護技術の講義では実際に法人施設で行われている介護手法を用いた実技が行われ、受講者に春風会の介護技術を知りたいなど良い機会になったと思います。



また併せて講師を担当した介護現場の職員にとっても、受講者に対していかに介護技術を分かりやすく講義・実演したら良いかを学ぶ機会であったと思います。

私たち春風会は、次年度以降についても介護職員初任者研修を継続的に開講し、地域における介護人材の育成と福祉力の向上に貢献できるよう努めてまいります。

<沼津地区会場>

令和6年9月10日
～11月19日まで

毎週火・金曜日
9:00～17:00の間

<伊豆地区会場>

令和6年9月11日
～11月20日まで

毎週水・土曜日
9:00～17:00の間

●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム

〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター

〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297

●特別養護老人ホームぬくもりの里

〒410-2315 伊豆の国市田原1259-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島

〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家

〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家

〒410-2315 伊豆の国市田原1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑

〒410-2315 伊豆の国市田原1258-47
TEL・FAX (0558) 76-6755

●原高齢者福祉センター

〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511

●ふれあいデイサービス (デイサービス一般型)

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

●天城放課後児童クラブ

〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園

〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723

●ケアハウスはるかぜ

〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385

●小規模多機能型施設 北狩野ケアセンター

〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレーゲあしたか

〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401

●小規模多機能型居宅介護支援事業所 プレーゲあおひと

〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

●障害サービス グループホーム なぎの家

〒410-2315 伊豆の国市田原1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆

〒410-2315 伊豆の国市田原1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬

〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園

TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880

●あまぎデイサービス (デイサービス一般型)

TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

●就労継続支援B型 事業所プラム (障害サービス)

TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

●プラムカフェ

TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター

〒410-0874 沼津市松長12-3

TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター

〒410-2414 伊豆市本立野531-1

TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

●ながいづ認定こども園

〒410-2805 伊豆市八幡282-1

TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

●はら居宅介護支援事業所

〒410-0311 沼津市原町中2-7-11

TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334